

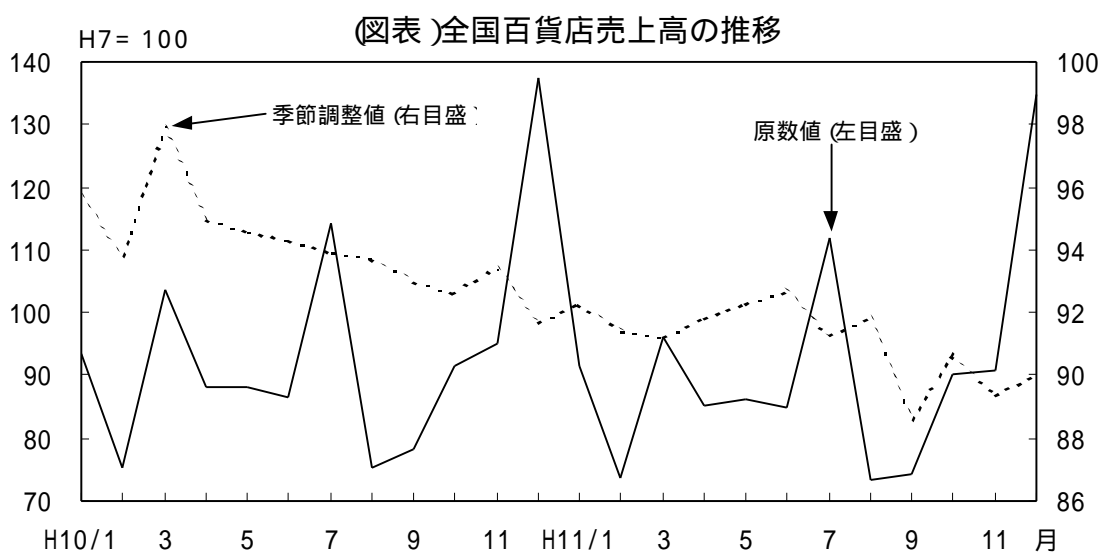
## 「季節調整」について

日本銀行等から発表される経済指標の中で、「季節調整値」とか「季節調整済」という文言を目にすることが多いと思います。そこで、今回は季節調整の意義・目的等について簡単に取り纏めてみました。

### 季節調整の意義・目的

モノの動きには天候や社会習慣等に起因する季節要因が含まれているため、この要因を含んだ計数を単純に比較しても正確な分析はできない。そこで登場してくるのが、「季節調整」である。「季節調整」とは、以上のような季節要因を除去することであり、季節調整値（＝季節調整済計数）を使うことにより、より精度の高い比較・分析が可能となる。

具体的な事例として、全国百貨店売上高の推移（下図）をみると、原数値では進入学商戦（3月）、中元商戦（7月）、歳暮・クリスマス商戦（12月）時期の売上が大きく嵩んでいる。これに対して、季節調整値はこのような社会慣習等の影響を取り除いているため、消費の実態（方向感）が把握し易い。



(注) 季節調整値 (X-12-ARMA) は本行で算出。

(資料) 通産省「商業販売統計」

季節変動について、もう少し具体的にみておくと、季節要因としては、以下のような自然的或いは社会的な要因を挙げることができる。

### 自然条件

天候や気温など自然条件は経済活動に直接影響を与える。例えば、清涼飲料水やクーラーなどは夏には売れるが、それ以外の季節には然程売れない。これに対応して生産・売上も増減する。

#### 月間営業日数の違い

年末年始の休暇、ゴールデンウィーク、盆休みを含む月や2月などは、他の月に比べて営業（稼動）日数が少ない。

#### 決算月特有の動き

例えば、決算期が近づくと、経営成績上の観点から売上高や受注高が嵩上げされたり、資金需要が増加したりする傾向がある。

#### 制度・習慣からの影響

我が国では、7月、12月には、中元、歳暮の習慣があるほか、これらの月にはボーナス支給も重なる結果、消費が急増する傾向にある。これに対応して消費財の生産・売上が増大する。

つまり、季節調整とは、原数値（何も手を加えない元のデータ）からこのような季節変動の要因を除去することであり、景気判断や経済分析を行うための準備作業である。

こうした季節調整を行うために、様々な季節調整モデルが開発されているが、現在、世界各国の統計機関の多くは、米国商務省センサス局が開発した移動平均型季節調整法に基づいた季節調整プログラム「X-12-ARIMA」を利用して、季節調整を行っている。我が国でも、日本銀行のほか、各種機関が発表する統計にもこの「X-12-ARIMA」が利用されている。

（参考）季節調整値の算出式

$$\frac{\text{原 数 値}}{\text{季 節 指 数}} = \text{季節調整値}$$

以 上